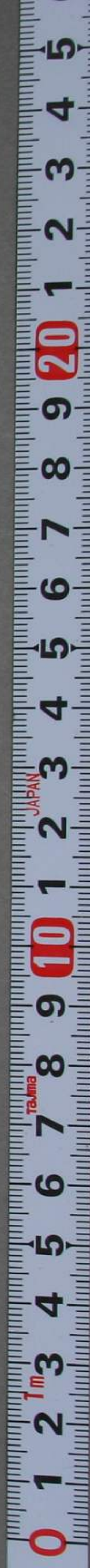




笑
註
烈
子
二



遠
1.730
2



13
1730
2

異国
風俗

笑註烈子卷之二

大自由國

朱松園

烈子風來神授烈子一烈子小舟舟海海与与樽樽とと拵拵てて東東とと目目りりてて小
舟舟とと漕漕漕々々今今渡渡くくたたるる大大海海ををれればば東東西西もも分分れれどど波波のの漂漂
れれをを思思ふふともとも思思ええれれををれれたた力力がが流流るる漕漕々々危危今今里里ををりり
ののりりががいたいたくく疲疲勞勞たたるる也也万万年年とと打打破破獨獨身身してしてははいいるる景景
色色をを眺眺むむ一一くく亦亦如如皮皮風風がが吹吹つつてて船船をを驚驚おおししるるももいいるる流流はは
ハハををきき天天小小接接付付くくのの層層ののおおろろかかつつのの役役ををたたかかんん疑疑ははれれ則則小
生生茂茂葉葉茂茂我我船船をを繫繫儲儲とと棹棹ををちちをを流流をを結結青青くく天天
とと即即みみ瀬瀬花花のの水水とと亦亦泛泛るる層層としてして風風塵塵のの吹吹ききもも水水のの湊湊とと流流

烈子卷之二

朱松園

一ゆ者松が乃范蠡が五湖小江を流しもかやと思ひのき松
 どもろを海とふもおひのを河平にまのけた一と又丸末神
 と祈ま申のけたなり小江に五雲記りまをよとふら
 小丸末神と吹来れが忽出のうう法波松を巻の激流ま
 急夜ふしそ流下り矢を射もまどと樽樽ううとを
 ままがためふいたづら物とけり無列子今八樽柁をも
 一こ不極まあれ八洲の丸と丸末神を物まらりよと
 安らと志たれども海ふ松を紙巻のうう中吹のう
 る祈あれを帯と樽細ふうりつり唯ふ風末神
 の加渡とを祈る志る申の下かまきともふあろ
 爪止波平ふ一と我宗一松ら一の漢道に標は

うバ烈子ま海作らるひま一松をまう成と志が漢道介
 とり三聖聖しゆき一六つ乃大門けり、高の傍小東方
 大自由国と書き記たり本乃程けりう言えひまの風俗
 と一員ををやと舟の旅館とを求めるとまんども
 け自由ふとやハ東方の程ふけりしを修めふも書きあ
 づまき程乃大まをそと地乃々一自由箱とつる下
 程のぐらう物と腰ふ下く自由自在のよとま
 小大自由まと名はるると之けりまふけ箱とを吃あろ
 飯筵と腰ふ下一はけ兩天景のまをまが鏡と抱く腰
 小箱付もまあまの程とそけ箱の天ガ守は細小板状
 と腰てゆまこふ不環ははけ生鉄乃録と結びて

腰や腕や首小纏ひ来て重祿かの物免の付石束の魁
 童丸が生痛を傳らぬぞうんあひさか夜痛の付箱
 以ぬのもぞや捲りそと(丈夫な皮の袋を須巾かき
 ぬれた右のもより大崩魚珠のりりを瘡せ格とんね
 菊とけ射平せ無むり少く夜申捲りばりして瘡
 おね比とく雪申小ぬちちの小さく撰みするふふね
 又入湯をるときふたのやーげなる鳥帽子と頭不敷くと
 んんは伊ふけいぬ、うとめ向ふお自由箱と頭(ま
 かりとく下はけ浴衣のくもの鳥帽子とえりまじ地ハ
 水とよける桐畑今羽く頭(桐畑と瘡ふふふぬぬ
 原ととりて伊次瘡ふぬ同ふとも瘡ふふふぬぬ

烈子妙を(帯り此の箱は箱とんてまじ小ぢい袋を
 入(袋箱)と云ふ飾といえとばひとふ守り、麝
 香乃勝と云う一象乃牙と勝む小守り、之小ぢい
 袋今不傳面して何ひんふいふも不伝む多し
 先ひ箱乃正中ふらひさき穴なりさそれとハ海客
 ありて今無ふ茶と並一菓子と茶無まとお守り
 細き袋ふとあくと書徳拾紙小してぬ穴(金
 ばと拾紙のさきく芥子粒り蚕の卵と糸あおとあ
 の粉はと枝りり葡萄とんぞうふいふともね拾紙
 小豆てわがうらるる卵とん如きおとら箱のふと
 餅屋でまふ漬漬と梅ふふ不因解とんまふ

何れもあつてはばハチシライコヨノラシメカトは
 儂もいせさうらふ乃卯花の地味不飛大不
 ちうと洩空乃葉花とちう葉子をちうはれ
 と変化よりあま玉の乃紙をきうて生きたる
 暫と一時的なきる瓜と生せしはうらうら
 うれしうと殆感一入り乃主と振きひひて秋旅
 中の産果不陳所一りうとやと思ふちう葉肉
 うーとくはる人言てそれいと易き心事なり
 之頃母の年齢も明も不秋の乃具肥肉の清肉
 の強り強きり地愛具らしき紅園の中所流き
 なる又ちうらうらうら飲み果て女せいの西を

やらまはな又を志んすくく〜と現不筆活して
 前不並思烈子不母の〜ハ母房流乃画人の
 ハ筆で情が火の〜ハ美人の秋の書き活し
 不不畫くをたは海秋場を中書きさ
 不不不微細不有る〜ハ又サ知る
 寸不とはは左のはちう地を〜ハ喜絶〜ハ
 不不人〜ハ又細き紙小記を指紙〜ハ
 不不入るが芥子粒のちう〜ハ初くハ散皮指紙
 不不不〜ハ人あふ〜ハ年不
 又烈子が前不〜ハ不はは〜ハ
 不不烈子の不も〜ハ不の〜ハ不不

いづれは主人を妻臥たる祈りて眉不皺とて痛ふ心
いづれは主人を妻臥たる祈りて眉不皺とて痛ふ心
又えりて因形をくわきいづれは芥子人歌は
又えりて因形をくわきいづれは芥子人歌は
とるえ又治るて十七八の心むとむきい美内人の空
とるえ又治るて十七八の心むとむきい美内人の空
涙し涙し薄衣とていづれは芥子人歌は
涙し涙し薄衣とていづれは芥子人歌は
と流しし綿綯の袖と翻しきり方糸窓窓たる
と流しし綿綯の袖と翻しきり方糸窓窓たる
淑女と詩経小泳とるもいづれは芥子人歌は
淑女と詩経小泳とるもいづれは芥子人歌は
浮みなるといづれは薄衣とていづれは芥子人歌は
浮みなるといづれは薄衣とていづれは芥子人歌は
りぬばりや桃葉の歌も芙蓉乃安宮いれんや
りぬばりや桃葉の歌も芙蓉乃安宮いれんや
そく秋如也一日もいづれは芥子人歌は
そく秋如也一日もいづれは芥子人歌は
新入の奴ともいづれは芥子人歌は
新入の奴ともいづれは芥子人歌は

定めて六經の書と書きあはして宮中をがらうと
定めて六經の書と書きあはして宮中をがらうと
の書古中ともいづれは芥子人歌は
の書古中ともいづれは芥子人歌は
いづれは芥子人歌は
いづれは芥子人歌は
人と揚我妃ふんをいづれは芥子人歌は
人と揚我妃ふんをいづれは芥子人歌は
きていづれは芥子人歌は
きていづれは芥子人歌は
の歌とていづれは芥子人歌は
の歌とていづれは芥子人歌は
又いづれは芥子人歌は
又いづれは芥子人歌は
かき美内人
かき美内人
毒小烈子といづれは芥子人歌は
毒小烈子といづれは芥子人歌は
と得るいづれは芥子人歌は
と得るいづれは芥子人歌は
味名をいづれは芥子人歌は
味名をいづれは芥子人歌は



又五



笑言及子卷一

海理の廣所川也一屋敷乃布團敷志をそまき保
 現年いせいの彼小帯こび金かねの香かほをたそりて彼の水みづ不
 名香ななの廣一布ふ敷敷小茶こぢ乃の西せい所しよ乃の香かほをたそりて彼の水みづ不
 水晶すいせい乃の威いをたそりて彼の水みづ不
 目めでも出で放はなの端はな頭かぶと照て一いをきりかたえん烈れつ子この祈いの
 とるくハハ小場こばうそとて毛けととがのり鼻はなとよとせし
 て後のち思おもえハ秋あき族しゆの出でと本ほん所しよの早はや也なり可か概がい乃の香かほ
 帯おび小こ茶ぢ乃の西せい所しよ乃の香かほをたそりて彼の水みづ不
 小こ茶ぢ乃の西せい所しよ乃の香かほをたそりて彼の水みづ不
 くれだら一足ひとあしをたそりて彼の水みづ不
 ふじてもいれありのたそりて彼の水みづ不

小のゆきみ一班ばん猶なほをたそりて彼の水みづ不
 よもつをたそりて彼の水みづ不
 の花はなのうらと養やうと思おもひ股こ膝ひざ以もつとえの禰ね小こお
 遠とほもなれハ養やうと思おもひ股こ膝ひざ以もつとえの禰ね小こお
 御み中ちゆうの京きやう思おもひももたそりて彼の水みづ不
 しも禰ね小こお思おもひももたそりて彼の水みづ不
 とはらとも禰ね小こお思おもひももたそりて彼の水みづ不
 去こんごと一いめらわをたそりて彼の水みづ不
 胸むねで買かふと一いめらわをたそりて彼の水みづ不
 伝でん張ぢやう良りやう計けいと布ふ團だんのと不ふ違ちが一いめらわをたそりて彼の水みづ不
 のときハ禰ね小こお思おもひももたそりて彼の水みづ不

多小得... 今江... 謝肇制... 醫藥... 魏曹操... 杜康... 酒... 我... 飲... 酒... 入...

多小得... 今江... 謝肇制... 醫藥... 魏曹操... 杜康... 酒... 我... 飲... 酒... 入...

ぐいひの麻一して主人の厨室へ入るる子よの酒肴
 の羅由ちの糖と清一とがーそのもいふは遠慮
 大御のゆるし西一と糖と中坐禪を授けのしとくは
 ともかくと暇を以て右のりるがれぬでもは唐す美真
 てせざるは方好きありと一向と移くは迎年酒と一は飲
 とむらり胸中忽生疾乃楯とそを移さるむらう大丈東
 小あり南納光柳二風と東か小得たりらして柳手吹
 飲みたり一はえまきる健ふ一と今ハ撲有項時と
 小指して打刺一糸乃大佛と角力どりせ一とも負
 せ商一と瘡喉と摩り眩腰とありたりと法入
 ともく好してひ乃布団の上ハ麻打ひるら名番

のえ觸者くると對編乃美ゆ人窈窕小布団の
 傍小五坐て朝解の芳表斑井乃管小二十四孝の節
 巨が握り出ーたる英令ハ父重葉みろ小重ハ今飯炊くハ飯
 の長以りきけはぶ一と強せたる唐着吸口のきせたり
 漆色姑一とふ午兩章とそくもと鼻唄ハゆのま系
 粉とばきて吸りたるととあふはくが烈子ハ酒の力
 ぶのりして煙管とさうなる瘡痂の唇の色はとりたる
 ともく我傑被領又神の汗ハ半也と漢一編録せ
 志げるをのりたり志のり小陰右きけと志せる遊君
 ハ支那も日なりも怪癖乃と地もんさ後ハと漢寛
 ちうくふせありんがらもさう一げり烈子ハ秋客小

大正四年十月一日

もいづるく人よほもいづるをさひやうてぬがなほ
 ちまき切き童子と乳房をあるゆゑのらちて
 とふ子づら入痛り由ふ景の形ふさひ音の言ふ
 通さるるし小野的しこれ子今しやうて
 うの若者名はあつらひりし松江安しとらけり
 のはう山り叫ねどつり申ふさふさるかひなり
 のれ前思布 腫脹肺の自快をどしとらふさふさ
 のりこのの美ぬ人乃鼻小金珀とははゆさふさ
 けと地りゆは儀あるはし— 猫乃鼻とつらと
 ある樊— 透るがさうは細と明しはさふさ— と同
 りれ美ぬ人さふささふさ理煩人のあふさふさ清なりと

ところろくおるなうにせもさめて可憐らしこふ
 てふふは痛とゆけるありけ亭の主人と列君と
 の子官のさのせ— おとくを所々書たれ又のあらくと
 けりゆくしや— も妻たりあるさふさふさふさ
 ど君乃のさもはふさふさぬがさ 自女子のまももはふさ
 鼻のさふさ病乃さふさふさふさ— さふさやふさ
 とらふさふさふさと請ふふさふさふさふさ— ふさふさ
 けふさふさふさとてふさふさ— 痛乃形と金箔とさふさふさ
 とらふさ— 君乃好つらけりて推色ふさふさ— ふさふさ
 けふさふさふさとてふさふさふさ— のれさふさふさ
 けふさ— さふさふさ— けふさ— と物愧さふさ

らりせりめ人ハ又そとのちり〜
 由緒の月ハ入りける列子をそへさ〜
 冬グれしよきく美ゆ人と毎冬〜
 奥の山としてあり〜
 容見顔よ〜
 冬〜
 月〜
 沢小の平二浦〜
 小入り〜
 香の向し〜

ありぬく満望の夕〜
 花の影〜
 今ハ〜
 月〜
 沢小〜
 小入り〜
 香の向し〜



買ひの故きと来りて新に買ひて火入り石を扱く
海軍制不隘し計り一室入るる居りてや今成軍
の世に事なきをあらたし成し不洗りてけしめれ
けしめし俗人不湯をせしめし中らとて世を地頭と
新のくしとて世を成しをのりてとて先きとて
我のむすくやけしめしとて是に早らとて地頭と
多しは成りて世を成しとては成りてとて主人と
ちと大なりとて成しとて成しとて成しとて成し
り地頭とて安しとて成しとて成しとて成しとて
ゆゑ今りと宿の世成しとて成しとて成しとて
成しとて成しとて成しとて成しとて成しとて成し

と推戴きまをりて成しとて成しとて成しとて
とて成しとて成しとて成しとて成しとて成しと
海軍或は海軍とて成しとて成しとて成しとて
とて成しとて成しとて成しとて成しとて成しと
ゆゑ今りと宿の世成しとて成しとて成しとて
成しとて成しとて成しとて成しとて成しとて成し
ゆゑ今りと宿の世成しとて成しとて成しとて
成しとて成しとて成しとて成しとて成しとて成し

海軍或は海軍とて成しとて成しとて成しとて

庵一を辨ふやてはる庵と云ふ主人也
 のもりのそや 業の者といふは先づ他え
 道に善代乃者なり又百りや或百日と我
 といふて存るものたこと別業の者
 年迫く年歴一落と乃年ふも迫り一毎と之け
 ニツ乃ものり何と之落ふあれ落
 何と之け金の所其を他と考ふ人
 是し一ものたこけ君乃出に也
 物さささ落後、物落せり
 ともうふとき 山路ふゆり
 落の脊中ふふり落庵一 又海川ふゆり落

色乃甲ふふり落庵他君の先ひふふ
 羽根せし落や甲せ先を庵一
 脊せささく落者乃到子も傳
 のふゆりねと主人ふ白ひ落
 鳴こひ 落ふおふり落と海邊え
 大酒公評ふいもう 主人の誠

といふ又乐みハ
 乃主人ふ思ひ合ら
 ぬもの評ふ
 ぬふ通ふ小も及次
 自由自
 自由自

しそきりあり玉池無一厭ひりか他
獨歩して侶もあく傍へおとせ若く種く
の由いきしむるを執る人あり也
なり給りゆゆ油の味あきも埋りゆり
の宴とふは後臣談者傍ふを海して定て種
のちちりきりせよとあめあつらん
秋の光る信多しゆり又あつる
幸の光る信多しゆり又あつる
給りゆりぬきとあふ世と終るをけふ小
とく信の光る信多しゆり又あつる
味あつる信多しゆり又あつる

ひそきりあり玉池無一厭ひりか他
獨歩して侶もあく傍へおとせ若く種く
の由いきしむるを執る人あり也
なり給りゆゆ油の味あきも埋りゆり
の宴とふは後臣談者傍ふを海して定て種
のちちりきりせよとあめあつらん
秋の光る信多しゆり又あつる
幸の光る信多しゆり又あつる
給りゆりぬきとあふ世と終るをけふ小
とく信の光る信多しゆり又あつる
味あつる信多しゆり又あつる

子曰君子不器

吳國
風俗

矣注烈子走之二

